



發行兼編輯人 川崎文治
印刷所 福島縣石城郡平町長橋町廿五番地
發行所 常磐毎日新聞社

定部金貳錢 廣五號十三休日曜大祭
一ヶ月廿五號 告五號一行刊日
郵稅五厘 料五十錢 日刊日
印刷所 本社專屬 磐陽社

(刊夕日一月一十) 號念記年週一滿刊創

滿一週年に際して

一層の躍進を契ふ

社長 川崎文治

本紙は大方諸彦の御聲援と御助力を辱ふして茲に滿一週年に到達することを得ました、僅かに一ケ年には過ぎませんが其間に於て一社一人主義を標榜しあらゆる難關を突破し捲ます真に走馬燈の如き活動を持続して茲に漸く一輪を加ふるに至つた事を思ひば確かに私としては感慨無量たらざるを得ません。赤手空拳の身を以つて此難事業に没頭し然も大なる蹉跌を蒙る事なく恰も順風に帆を張るの勢を示して今日を迎ふるに至つた事は幾重にも諸彦の御同情に寄るものと日夜感激に終始するの外はありません、「強く、正しく」は本紙の一貫して換る處なき主義綱領でありまして今後一層此信念を確實に把持して進み諸彦の御期待に報ゆる様飽迄も努力する覚悟であります、私は本紙が社會の公器であり且つ其使命を果す様に最善の力を日夜傾注すべき一介の文筆労働者であつて此意味に於ける諸彦の忠實なる公僕であります、何卒諸彦に於かれましては此公僕をして其眞價を發揮せしむべく一層の御鞭達を此機に際して特に切望致します

祝一週年

合醬油釀造元
鹽屋本店

山崎與三郎

平町古鍛冶町
電話 二一七番

石城郡選出縣會議員

- 井上茂作 (平町)
- 小野晋平 (小名濱町)
- 大平陸四郎 (窪田村)
- 草野順平 (平町)
- 古川傳一 (植田町)
- 木村清治 (大浦村)

磐城建物株式會社

平町五丁目 電話 四五一八番

神戸海上運送
火災保險株式會社代理店
共保生命保險株式會社磐東代理店
營業所 平町白銀町
電話 二二五番
三二二番

加藤丈夫

書籍雜誌
學校用品
文具
清光堂本店
平町二丁目 電話 一三二番

平窪村
松本徳一

縁川喜三郎
平町搔抛小路

福島縣石城郡平町大工町
郡山電氣株式會社平支店
電話 七五番
一六三番

合名會社

中野吳服店
電話 六十七番

平陽實科女學校
電話 四四四番
四四五番

高橋龜松
平町白銀町

平町二丁目
雜貨商大一屋商店
電話 十三番

平驛前
石炭部
阿部政右衛門
電話 四五八番

平町二丁目
關内油店
電話 一六番

平代理店
橫濱生命保險株式會社
中野甲藏
電話 一一番

藤田裁縫女學校
平町田町電話 三二八番

土木建築請負業
渡邊長作
福島縣湯本町(電話長)四〇番
出張所 同縣平町四丁目三三番

海岸線平町土橋
鹽屋吳服店
電話 四二二番

配達の少年達が 本社長に金看板を

本紙の一週年を祝つて
『常磐盟友會』を組織し
赤誠こめた贈り物

川崎本社長が經營せる川崎奔走の結果明日午後一時か
巡回文庫の配達に従事して本社専屬印刷工場警陽社
平商業學校を卒業し現に本報上に於て發會式を舉ぐる
區裁判所書記課に勤務中の事となつたが同時に
坂本忠治君及び遠藤運動具
店大谷利男君は本紙の満一
週年を機として以前

同文庫の配達に精
勵せる者及び本紙に従事中
の少年達を勸誘し「常磐盟
友會」なる會合を設けんと
する由

去就に迷ふ... 神谷地スベリ被害民

家屋移轉の方針が
調査未了の爲め決せず

石城郡神谷村遠山内山地の地五名は高野教諭、三澤教諭
に依る住宅移轉問題は心得引卒の下に來る五日か
内郷村礦毒被害調査の爲め八日間、東京、名古屋、
過般來出張滞在中であつた宇治山田、奈良、大坂、神
仙台礦務所石田技手の調査員、京都方面へ修學旅行決
定した

昨日の 教育者懇親

秋色を賞して
平在任教育者懇親會は既報
の如く天長祝日の佳辰をト
し廿一日午前十時より警中
校庭に於て大弓、庭球、砲
九投、槍投等の隨意競技を
試み正午より同校屋下澤の

平商修學旅行

既報
商業學校三學年生徒五十

一年志願兵

來月一日入營

湯に引揚げ當番幹事學校滑
川警中校長の開會の辭に始
まり折詰を肴に清楚なる酒
宴を張り水野郡長の音頭
で陛下の萬歳の三唱し献酬
名左の如くである
石城郡から一年志願兵とし
て十二月一日入營すべき氏
永戸村合津春三、平窪村
矢吹英雄、玉川村小松正
治、山田村私山清一、好
間村小野好安、下小川村
吉田太平、大浦村佐久山
英治、鹿島村鈴木伊佐
雄、神谷村神原多博、大
野村大谷一郎、同村本田
剛、小名濱町小野正内郷
村大越久五郎

磐崎校遭難事件の 伊藤校長は不起訴

謹慎の諭告に及ばず
辭職も其儀に及ばず

石城郡磐崎村第一小學校校長電氣不正事件に關する豫審
伊藤芳松氏は今回の三兒童の終結は本日夕該迄に決定
遭難事件に依つて平署の取する見込みにて全部有罪で
調べを受け一件書類を檢事
局に送られたが取調への結
果廿九日附を以つて不起訴
と決定した尙校長以下八名
の全校教員は當時連袂辭表
を提出し引責の誠意を披歴
したが各遭難兒童父兄の意
を諒として一先辭意を離
し其筋に進退伺へを提出中
の處前記の如く不起訴と決
定せる關係上單に謹慎の諭
告に止むより多分辭職の儀
は其儀に及ばずと云ふ事
定まるのではないかと云ふ

「思ひ付き」 投稿を謝す

熱心な改善案

本紙は紙面改善の爲めに
廣く讀者諸君の意見を求
めんと「思ひ付き」を募集
したが其應募數廿八通に
及び何れも熱心に種々の
改善案を建言され本紙製
作上に資する處頗る大な
る收穫を見るに至つた殊
に左記の諸氏の「思ひ付
き」投稿は至極適切なも
のであつて今後參考とす
るの點甚だ多い爲め茲に
其氏名を掲げ厚志に對し
謹んで謝意を表して置く

全部有罪か

本日決定らし

栗原欣次郎外五名に係る平

三少年表彰

本紙の配達を
一日も休まず

本社配達係平商二年生三浦
金治、平第一高等科二年生
西湯元三、同一年生鈴木源
一の三少年は常磐毎日新聞
創刊以來通學の傍ら一日の
休みなく本紙の配達に従事
し然も學業操行共に優良で
あつて他の兒童の模範とす
るに足るの故を以つて本社
は一週年記念を機として明日
午後三時から右少年の表彰
式を舉行すべく決定した

賞懸ひ違字一

當選者

- 一等 白銀町森 合 英
- 二等 研 町屋島治三郎
- 三等 鍛冶町 淺井 喬一
- 同 四丁目 高野長三郎
- 同 研 町綿引三重松
- 同 田 町木村キミ
- 同 紺屋町 小林 定男
- 同 五丁目 井 上 明
- 同 田 町渡邊 よね

(選外賞) 二丁目 いづや、大工町 愛川夫美、四丁目 小
管武雄、一丁目 坂本紙店、二丁目 早川仁、柳町 山崎
博久、一丁目 青木幹夫、鎌田町 鯨岡サタ、三丁目 松
本仁、新町 岡部吉次郎、南町 酒井フミ、長橋町 寒風
澤庄次郎、新町 岡部川富太郎、鍛冶町 伊藤伊三郎、
田町 萬城目 茂一、柳町 大田貞治、搔樋小路 伊藤三雄
北町 鈴木キキ、七丁目 伊藤孝平、四丁目 小野勝三
五丁目 富士の湯、白銀町 伊藤眞一、長橋町 齋藤金吉
新道通 關根軍之助、一丁目 岩崎廣、九品寺 前桑原寅
吉、一丁目 丸屋足袋店、鍛冶町 後藤秋夫、白銀町 石
井キイ、内郷村 薄宿子店

常陸セント海岸線特約店

住吉屋分店
酒井 喜七

三井 吳服店

海岸線平町三丁目
合資會社
電話三八番

平町前
平デパート
メントストア
電話六番

柴田書店
平町四丁目
電話二番

石井兼藏
平町三丁目
電話四二九番

松ヶ岡公園の
尼子亭
電話二三〇番

平 磐
町 城
田 病
町 院
番 四 一 一 話 電

川崎君とは 宿命的な奇縁を持つ 貴紙の一週年を迎へて

いはらき新聞平支局

柏木 哲

川崎君の常警毎日新聞がその所謂新聞格の向上維の創刊當時に於てその頃自持は決して之れを忘るゝことが籍を置いた警城新聞社とはなかつた。余は以上の印刷場として居つた關係見地よりその常警片々等の上ふたりはよくその編輯あらはれた君独自の觀察或室で向ひ合つて原稿書をしは文章の奇警卓抜を賞讃すた。その後常警の印刷工場は忘れぬがその以が變つて間のない本年三月前に於て新聞製作上終始一自分はいはらき記者として貫せる君の行藏進止を讀へ川崎君に遅るゝこと六年有んとするものである

○ 未班に席を置くに至つたの「君はごうする、僕は書かであるが今にして君が禁酒ない心算だ」川崎君はよく以前良く二人が酒盃を闘はこうしたことを云ふ。珍奇した當時から今日に至る間と清新とを生命とする新聞の往復交歓と一種宿命的奇縁を扱ふ立場に在てそのしき縁を思ひ浮べると他人に對する身邊の公開に於て二人は所詮同一の圓よつて生ずる世道人心上の周を辿りつゝあるではない利害得失を比較考量しそのかと云ふ如き感慨の湧起す利少しと信じた時に於て直るを禁する能はざるものがある

○ 血みごろな川崎君の奮闘。比較的限られたる天地を舞らねばならぬ常警紙の創刊して之の感更に深きものあり一週年を迎ふるに當り吾人らねばならぬに前記川崎君はそらに其の間の雲嵐風の態度の如きはまた寧ろ異變に直面し倦まず撓まず健康の穩健振りとして目すべしを續けた涙ぐましい君のさであらうと思ふ。常に悪勢力に對して甚深なる諷刺事蹟の摘發より善行美事と同情をを表するものであつたの公開をさきにするといつる、而も常に過重なる經營たような君の襟懷がよろこ上の負擔に心神まさに萎えはしい

○ 以上川崎君に對する余の論評が果して僭越無謀であるか、それとも一程の樂屋お健全なる發達を祈るものでちであるか、それは姑らく見ある

大瀧發電所 許可同盟會

- 會長 大原長太郎
- 副會長 丹野榮三郎
- 同 植頭鶴松
- 同 大森勇

福島縣農工銀行
頭取 白井博之

元代議士 高岡唯一郎

植田水力電氣株式會社
社長 金成通

磐城實業銀行
專務 鈴木辰三郎

伊藤淺之助
石城郡飯野村

平町宿屋組合

平町理髮業組合

御料理藥湯
樂天 地

御一報次第參上
南町電話(呼)二六九番
佐川洋服店
平町三丁目電話(呼)四四七番
同營業所

柳澤篤義
平町田町(電話四七五番)

草野廣吉
平町搔搔小路(電話番)

平料理屋組合

洋品店
鶴屋商店
平町電話一四〇番

柏屋染物店
柏屋刺子部
平町材木町

平野前
高野自轉車店
主 高野得助
電話三二六番

飯野村長
山崎吉平

帝キネ
直營 有聲座
平野前 電話四四六番

御料理
谷口樓
電話八番

聚樂館
電話四七〇番

常警線平野前
平野公認運送店
取扱人組合
事務所電話二二三七番

平藝妓屋組合

竹三橋 山久三甲谷玉
之島 葉形 好
家家亭家家本家子口川

野米富林品福仲湖開吉
美の 家の澤清家月花家

祝一週年

磐城銀行
平町三丁目 電話三三三番、一五四番

平越銀行
平町二丁目 電話三〇〇番

磐城實業銀行
平町四丁目 電話二二四番

七十七平支店
平町二丁目 電話四一四番

農工銀行平支店
平町四丁目 電話三六八番

第七銀行平支店
平町四丁目 電話三一八番

磐東銀行
植田町 電話三三三番

四倉銀行
四倉町 電話四七番

磯原出張所
植田町 電話六五番

磐城セメント

特約代理店平町五丁目

和洋銅鐵金物問屋
久釜屋商店

諸橋久太郎
諸橋守治
電話九番、一三九番

洋時計店 大谷久藏
平町三丁目(電話一九番)

醫療藥品

小野常治商店
平町四丁目(電話一四四番)

石城產科婦學校
校主 鷹崎貞衛

平町一丁目(電話三五七番)

平町銀治町

吉田伴吉商店
電話二二五番

平町三丁目

大原吳服店
電話一七〇番

森永會社代理店
マツモトヤ

平町四丁目 電話二二四番

三井履物店

三井常松
平町二丁目 電話五六番

東京恒産會社

磐城支社
平町郡役所前

井上貞次郎
井上茂作

平町五丁目(電話五一八番)

吉田喜代治
平町白銀町
電話四八番

龜田屋服店
平町四丁目
電話五七番

シンガー裁縫ミシン會社
支店長 石川平之助

平町白銀町

平製氷株式會社
平町大工町
電話二二八番、三二六番

平町四丁目

百澤商店
電話二二番

平町四丁目

松月堂
電話二〇六番

佐藤鐵工所
平町月見町
電話三二番

平町驛前

婦人美學會

平町驛前

漆器指物 雜貨佛具 丸はん
平町三丁目
電話五九番

藥劑師 關内榮助
平町三丁目
電話四〇番

各種諸看板製造所
大音堂
平町四丁目

冬帽子 新型
遠藤帽子店
平町二丁目

美術寫真器具一式
平和堂
平町驛前
電話六二番

平町二丁目

勇屋履物店
平町二丁目
電話三七番

磐城祐賢學舍長
大和田豊吉
平町城山

平町城山

石城青校學
平町城山

漆器指物 雜貨佛具 丸はん
平町三丁目
電話五九番

平町驛前

產科婦學校
平看護婦會
會長 清野さよ
南町 電話三〇七番

平町田町 電話三二二番

丸登株式會社
川添房次郎

錦水流琵琶教授
平手錦鞭
平町田町六五

大村屋旅館
平町二丁目 電話一七五番

銘酒釀造元
鶴仙松吉屋本店
石城郡平窪村 電話二四一番

城山 植竹源太郎

和洋銅鐵度量衡
坂田藤助
平町二丁目(電話一二八番)

優美堅牢價格、低廉なる最高級
コサツク萬年筆
高倉萬年筆製作所
平町三丁目

學校用品文具
乾書店
平町搦槌小路 電話三一五番

平町驛前

產科婦學校
平看護婦會
會長 清野さよ
南町 電話三〇七番

平町驛前

漆器指物 雜貨佛具 丸はん
平町三丁目
電話五九番